株式会社サイズビジョン

熱中症予防対策マニュアル

令和6年6月30日

■はじめに

安全衛生法の改定により、2025年6月から、
事業者に対して熱中症対策が**“義務化”**され
違反した場合、
「6か月以下の懲役」「50万円以下の罰金」
課せられることもあります。

■熱中症予防対策マニュアル

この熱中症予防対策マニュアルは、業務に関わる全てのスタッフ（従業員、フリーランス、協力会社スタッフ、出演者等を含む）を夏の暑さによる健康障害「熱中症」から守り、安全な制作環境を維持することを目的とします。

映像制作の現場は、屋外での長時間にわたるロケーション撮影や、多くの照明機材を使用するスタジオ内での作業など、高温環境下での労働が避けられない場面が多々あります。

熱中症は、時に生命に関わる重大な事故につながる可能性があります。

会社とスタッフ一人ひとりが熱中症に関する正しい知識を持ち、適切な予防策と緊急時対応を共有・実践することで、安全かつ円滑な業務遂行を目指します。

■基本方針

【安全最優先】
制作スケジュールやクオリティの追求も重要ですが、
何よりもスタッフの安全と健康を最優先します。

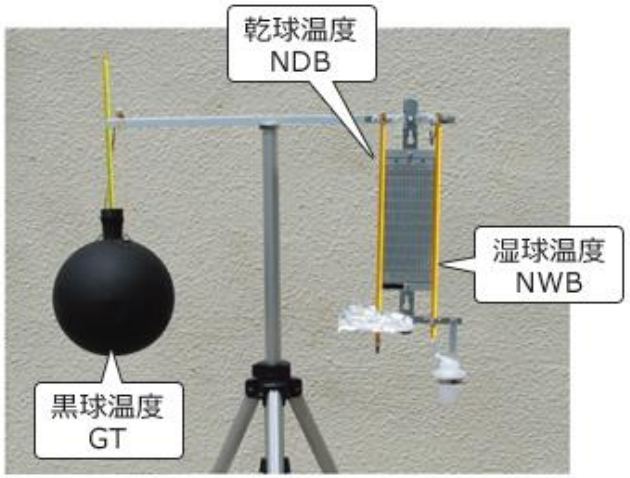
【予防の徹底】
熱中症は予防できる災害です。
事前の計画と準備、作業中の対策を徹底します。

【全員参加】
役職や立場に関わらず、全員が当事者意識を持ち、
互いに注意を払い、声を掛け合う「共助」の精神で取り組みます。

【情報共有】
気温、湿度、暑さ指数（WBGT）などの環境情報や、
各人の体調に関する情報を積極的に共有します。

ノッハ ノノノ's vision

■対策義務発生条件



暑さ指数(WBGT)測定装置

【夏場の屋外ロケや空調の効かない状況での屋内撮影や業務】

●気温**31度**以上の環境、あるいは気温や湿度などから算出する暑さ指数(ＷＢＧＴ)が28以上

※WBGT ＝0.7 × 湿球温度 ＋ 0.2 × 黒球温度 ＋ 0.1 × 乾球温度

●上記の環境で**1日4時間以上**または**連続1時間以上**作業をする場合

上記条件の業務の際は必ず次項からの対策を講じてください！

こまめな水分補給

直射日光を避けよう

■基本的な予防対策

【水分・塩分補給の徹底】

●休憩ごとにスポーツドリンクや経口補水液、または水と塩分タブレットなどをこまめに摂取するよう促しましょう。

●のどが渇く前に水分補給をすることが重要です。定期的な声かけや、水分補給タイムを設けるなどの工夫をしてください。

●アルコールやカフェインを多く含む飲料は利尿作用があるため、水分補給には適さないので避けましょう。

【休憩の確保】

●定期的に日陰や空調の効いた場所で休憩を取りましょう。

●夏季（特に7月～9月）は、日中の最も気温が高い時間帯（11時～15時頃）の屋外撮影を極力避けるスケジュールを組む。早朝や夕方以降の撮影を検討する。

●連続した作業時間を短くし、こまめな休憩時間を計画に盛り込む。

●休憩中は体を締め付けない服装で、リラックスできる環境を提供してください。

■基本的な予防対策

十分な睡眠と食事

【服装の工夫】

●通気性が良く、吸湿速乾性の高い素材の服装を選びましょう。

●明るい色の服は熱を吸収しにくいため、おすすめです。

●直射日光を避けるため、帽子や日傘などを積極的に活用しましょう。

【体調管理の徹底】

●撮影前には、キャスト・スタッフ全員の体調を確認しましょう。発熱、倦怠感、食欲不振など、体調不良の兆候がないか確認し、無理な参加はさせないようにしてください。

●睡眠不足や疲労は熱中症のリスクを高めます。十分な休養を取るよう促しましょう。

●持病のある方や体調に不安がある方は、事前に申し出るよう周知し細心の注意を払ってください。

近隣の病院の把握

小まめな休憩を入れた香盤

■基本的な予防対策

【ロケハン時にリスク評価】

●日中の日差しを避けられる日陰や、冷房の効いた休憩場所
（建物、 車両等）を確保できるか確認する。

●撮影場所の地面の種類（アスファルト、土、草地など）を確認する。
アスファルトは照り返しが強く、体感温度を上昇させます。

●近隣の病院や診療所の場所、連絡先をリストアップしておく。

【スケジュールの工夫】

●夏季（特に7月～9月）は、日中の最も気温が高い時間帯
（11時～15時頃）の屋外撮影を極力避けるスケジュールを組む。
早朝や夕方以降の撮影を検討する。

●連続した作業時間を短くし、こまめな休憩時間を計画に盛り込む。

■現場での具体的な対策

❶涼しい場所の確保

・移動車両や休憩スペースは、エアコンが効いている場所を選びましょう。
・屋外での撮影では、テントやタープなどを設営し、日陰を確保しましょう。
・可能であれば、扇風機やミストファンなどの冷却グッズを設置しましょう。

❷塩分補給

・塩飴、塩タブレットなどを準備し小まめに補給しましょう。

❸冷却グッズの活用

・個人用: ネッククーラー、冷却シート、携帯扇風機など。
・共有用: スポットクーラー、大型扇風機、ミストファン、氷を入れたクーラーボックス、冷たいおしぼりなど。
・首筋や脇の下など、太い血管が通っている場所を冷やすと効果的です。

❹救急用品

・体温計、血圧計、経口補水液、体を冷やすための氷のうなどを救急セットに加える。

■現場での具体的な対策

❺管理者・リーダーの選出と役目

・現場の責任者は、熱中症予防対策の重要性を常に意識し、率先して対策を実施・指示しましょう。

・キャスト・スタッフの体調変化にいち早く気づけるよう、常に注意を払い、異変を感じたらすぐに声をかけ、適切な対応を取りましょう。

・熱中症の兆候が見られる人には、すぐに涼しい場所へ移動させ、水分補給、体を冷やすなどの応急処置を行い、必要に応じて医療機関を受診させましょう。

	主な症状
Ⅰ度 （軽症）	・立ちくらみ、めまい ・筋肉痛、こむら返り ・大量の発汗
Ⅱ度 （中等症）	・頭痛、吐き気、嘔吐 ・倦怠感、虚脱感 ・集中力や判断力の低下
Ⅲ度 （重症）	・意識がない、 意識がもうろうとしている ・けいれん ・呼びかけへの返事がおかしい ・まっすぐ歩けない ・体温が非常に高い（触ると熱い）

■緊急時の対応

万が一、熱中症が疑われる人が発生した場合は、以下の手順で迅速に対応してください。

❶安全な場所へ移動

・すぐに日陰や涼しい場所へ移動させましょう。

❷体を冷やす

・衣服を緩め、体を締め付けているものを外し、風通しを良くしましょう。

・露出した部分に水をかけたり、濡らしたタオルで体を拭いたり、氷のうなどで首筋、脇の下、足の付け根などを集中的に冷やしましょう。

❸水分・塩分補給

・意識がある場合は、冷たいスポーツドリンクや経口補水液を少量ずつ飲ませましょう。

・首筋や脇の下など、太い血管が通っている場所を冷やすと効果的です。

連絡体制

第一発見者
↓
現場のプロデューサー/
制作担当に報告
↓
・救急車の手配（必要な場合）
・近隣病院への連絡
・会社への報告
↓
会社（管理者）
↓
家族への連絡、
労災関連の手続き準備

■緊急時の対応

万が一、熱中症が疑われる人が発生した場合は、以下の手順で迅速に対応してください。

❹医療機関への連絡・搬送

・意識がない、痙攣している、自力で水分補給ができない、症状が改善しない場合は、すぐに救急車（119番）を呼び、医療機関へ搬送しましょう。
・救急車を待つ間も、引き続き体を冷やすなどの応急処置を継続してください。

❺情報共有

・緊急時は、関係者間で情報を共有し、冷静かつ迅速に対応しましょう。

最後に

キャスト・スタッフ全員に熱中症の危険性、予防方法、緊急時の対応について、
定期的に教育・研修を行い、意識を高めましょう。

また、このマニュアルはあくまで基本的な指針です。
現場の状況や天候、撮影内容によって柔軟に対応し、
キャスト・スタッフ全員が安全に撮影に臨めるよう、
熱中症予防対策を徹底しましょう。